

KSKP サロン・あべの

NO. 57

サロンの5年、これからのサロン



一九九一年三月二十九日発行（毎日発行）KSKP通巻一五八〇号一九八四年八月二〇日第三種郵便認可
 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市東成区中本一丁目三十一番六 ベルビュウ森の宮二〇七号

春一番が早くに吹き、春本番も間近かと思われた平成三年二月十六日（土）午後一時〜四時、育徳コミュニティセンター研修室に於て二月の集いを開いた。

昭和六一年三月二十九日に育徳コミュニティセンターホールでハサロン・あべのVは産声を上げた。あれから五年、毎月の集いで多くの方々との出会いがあり、ふれあいが生まれ、交流の輪が広がってきた。

ハサロン・あべのVの年表を見ながら、参加者お一人おひとりにサロンの五年、これからのサロンをお伺いした。

サロンの五年

親しみがもてる会。

月一回の集いへの参加が楽しみ。

毎年のクリスマスが楽しい。

定藤先生の話が面白かった。

社会勉強が出来た。

これからもその時々々の社会情勢に合わせて講演や専門家の話が聞きたい。

障害者の問題をあらためて考えなおすことが出来た。

仕事よりサロンに来るのが楽しい。

地域での参加がないのでサロンでの行事参加が出来るのがよい。

多くの人達に会い、自分の周りが広がって行く等々。

又、サロンに参加して友達が出来たり、他のグループや団体を知り、学習会や行事等に参加して新しい自分を発見したり、行動半径が広がったとも。

そして、点字、手話スクールを終了したので、これらを役立てて行きたいという人も。

あいか彩子さんの「ファッションショー」に出演して貴重な体験が出来た。その関係から、NHKテレビに出演して車椅子で梅田界限をルポしたという(放映2/16)大きな広がりを持った人もおられる。

これからのサロン

これからのサロンについては「一期一会」の想いで集いに参加している。泊りがけの旅をしてみんなと親睦を深めたい等、出会いの楽しさと交流を深めていけるような機会が欲しい。また、障害者が一人で生活出来る道具や設備について知りたいし、街へ

出る交通情報等も欲しい、それも大阪だけでなく日本から外国まで幅広い内容がよいと夢を広げる。

が、なによりもサロンに望まれることは、ふれあい、自由に語りあえることが出来る場であって欲しい。サロンに来て一言でも話をして人との輪を広げていきたい。そこからお互いの理解が生まれ交流も深まってく。特に違う障害を持っていてる者どうしは、なかなか出会う場も無いのでサロンでの交流で関心を深めていけたらいい。サロンに来ることが目的ではなく、そこから何かを掴んで広がりを持てるようになって欲しい等々、

サロンがいつも常々希っていることを代弁するような意見が出された。

単なる出合いの場だけでなく、行政に訴えていく行動力も必要ではとの意見も。

サロンの想いがそれぞれの想いとなって受け止められているのがよく解ったが、多くの参加者を迎えるようになってきた今日、その想いをはっきりとした形にして出しにくくなってきている。自由な時間に来て、自由に話が出来場所が欲しい。これが、

これからのAサロン・あべのVの大きな課題では……。

この日の参加者三〇名、司会は河合恵子さん。



おしらせ

四月の出会い

日時 平成三年 四月二〇日(土)
午後一時～四時(雨天中止)

内容 「天王寺動物園再発見!」

集合 JR天王寺駅向い天王寺公園入口

時間 午後一時(時間厳守)

会費 実費(身体障害者手帳をお持ちの

方は必ずご持参下さい)

問い合わせ TEL 06-691-1028 (畠田慶子)



ワイドな出会いを

田 辺 さかえ

リサロン・あべのリ紙（朗読テープ）をいつも楽しみに聞いています。その中でも「なんとかしてエくな」は、障害の異なる人達の不便さや、不自由を識ることが出来るので、関心を持って聞きます。

手足を伸ばして一日の疲れを癒せるはずの入浴が苦痛であったり、道路事情によって車椅子ゆえに遠回りをしなければ、目的



地にたどりつけないとか等々、各々のご苦労が忍ばれます。

私は光の全く見えない全盲者ですので、外出した時など風で倒れている自転車に乗り上げたり、車止めの枕にお腹をぶついたりします。又、お話相手の人と焦点が合わなくて、横向きに話をしていたり等々。見えないがゆえに体験する苦労があります。肢体や聴言障害など異なる障害を持って

いる人達とは、同じ「障害者」と呼ばれていながらも、出会える機会が多くはありませんので、相手のことを理解しあえていない事が沢山あると想います。サロンの中で、異なる障害の人達と出会い、お互いの悩みや失敗、苦しみなどを話合せて、もっと近づきあいたいと考えています。そして、私達の弱い所を理解ある健常者の方々に補強してもらいながら、心のふれあえる行動を共にしていきたいものです。「障害者年」完全参加に名を借りて、社会性を養いつつ自覚と努力により、もっともっとワイドに色々な人達との出会いを作っていきたいと思えます。

（テープ寄稿：文責富田）

∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていたいでいます。バックナンバーは三九号から、五六号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。サロン紙朗読テープご希望の方は、富田までお申し出下さい。（TEL 06-691-1028）

井 感謝 します 井

カンパ・切手・ハガキ・冊子・お菓子・ビデオテープ「ファッションショーこれから」等、ご協力ありがとうございました。お礼を申し上げます。

二月のカンパ

金五二〇〇円

あいか彩子、芦沢栄、井上憲一、金子花江、木口久子、木村圭子、長島伊津子、中野君江、丸山寿美子、山田綱代、匿名二名様。（敬称略）

福祉職志望

岡 知史

卒業式の日が近づいてきて、ぼくは一人の学生のこの日を、意外な気持ちをもって受けとめようとしている。

彼は、入学試験の面接のときにも、ぼくに笑顔を寄せ、福祉についての理想を語っていた。入学してからは、図書館で社会福祉の難しい本を借りて読んだり、障害をもつた人とかかわるアルバイトなどをしていった。授業は熱心に聞き、他の学生の話によると、難しい授業のときはテープレコーダーをもつていつて最前列に座っていた。授業の合間には、ときどきぼくの研究室に遊びにきて、福祉の勉強の仕方を質問していた。

それがどうしたことか、三年のころには急に無気力な様子になり、四年になっても就職にはほとんど関心がなかったようだ。結局、卒業して就職するようだが、なにか自分で考えがあつてその職業を選択したのではないようだ。就職面接を受けた先をいくつか聞いてみたが、まったく脈絡なく、ただ適当に気まぐれに面接にでかけていたらしい。

以前は、彼の卒業の日には、どんな青年が生まれているだろうと期待していたのである。しかし今の彼は、自分が選んだ仕事にも興味がなく、大学生活もつまらなかつた。苦笑するだけである。

何が彼にあつただけのだろうと、彼の親しい友人に聞いてみた。何かシヨッキングなこともあつたのだろうか。裏切られたような気持ちになつていた。ぼくに、彼の友人は



次のようなことを語つた。

何かあつたというよりは、実はむしろ何もなかつた。彼はたしかに入学当時は「福祉」「福祉」と言つていた。あちこちにボランティアに行つたり、専門の本を読んだりしていた。しかし、彼の考えていることは「深く」はなかつた！

彼の言う「福祉」は幼稚で単純なイメージしかもたないものであつた。電車のなかで老人がいたら席をゆずる、それが正義であり、それが福祉であり、模範的な市民であり、当然ながら社会の賞賛を受けるものであつた。多くの高校生が「福祉」にイメージするのには、せいぜいそんなところな程度見て、それで「わかつた」というなら、それだけのものなのだ。

しかし、大学の講義という小さな細い窓から見ただけでも現実の「福祉」はどうだろうか。「福祉」は、皆が認める正義でもなければ、模範的なものでもなく、社会的賞賛を受けるものでもないのではないか。障害をもつた人の作業所を建てようとする住民の反対運動が起こる。「こういう人は山奥で静かに暮らした方が幸せじゃないか！ 私たちはこの人たちのことを思つて言つているのですよ」と、「良識」ある住民たちが涙を浮かべながら建設反対の署名用紙の束を突きつけるとき、そこにかかわる福祉従事者は、正義でもなく、模範的でもない。社会的に不当な扱いを受けている人にとともに歩もうとする、おそくは孤独な理解されない少数者なのである。

卒業したら社会福祉の現場で働きたいと言つて親がびつくりして反対する。世の中

はそんな甘いものではない、大学を出てま
でなぜそんなことをするのか、そんなこと
じゃ結婚もできないぞと延々と説教する。
そして最後には、福祉学科の大学の教員に
子供を説得してくれと泣いて頼む親もいる
そうだ。

政治家は「福祉」というと票が集まるら
しい。福祉現場で働く人には一般に「えら
いねえ」という賞賛の言葉が与えられる。
しかし、その実、現場で働く人々の労働条
件はあいかわらず厳しく、賃金もかなり低
いままなのだ。

また、福祉施設で暮らす人たちは、たい
てい過酷な差別を受け、社会的偏見に苦し
んでいる。そういう人たちといっしょに生
きていくということは、その被差別体験を
分かちあうことに他ならない。「共に生き
る」なかで、見下され、拒絶され、理解を
得られないこともあるはずだ。社会から抑
圧されている人とともに歩むということは
本当にたいへんなことなのだ。

彼の友人はこう言うのである。入学した
当時の彼は、誰もが認める正義として、誰
もが誉める模範として「福祉」を考えてい
た。だから「福祉」を語るとき、彼は不正
と戦うある種のヒロイズムのなかで自分を
とらえていた。ところが現実の「福祉」が
彼に期待したのは、華々しく旗を振り「救
い」を与えるヒーローではなく、差別され
ている人とともに先ずは耐え忍び、苦しい孤
独な体験を分かちあう「仲間」であったの
である。

福祉を勉強したいと声を高くして入学し
てくる新入生を、ぼくは今年はずっと目で
迎えることだろう。

ちよっとのぞいたアメリカ ②

大島 功

前にも記したように、国の広さから言っ
ても状況が異なりますが、その中でも交通
事情が我が国と大きく違いました。

高速道路は、ゴールデンゲートを除いて
全て無料。有名なサンフランシスコのケー
ブルカーも車掌が居り、停留所が有り乗車
料金は必要ですが、ゆっくり走っているの
で、どこからでも乗り降りをし、車掌も市
営だからか、あくせく料金を徴収しないそ
うです。

話は変わりますが、一般的にみて物価は安
い。例えば、メキシコ人の皮革専門店で十
ドル（一五〇〇円）も出せば堅牢で良い革
のバンドが手に入りますし、ジャンパーも
一万円で手に入ります。

日本の消費税に似た六%の税金がありま

すが、食事、食品代金等は無税となってお
り、日本とどちらが消費生活からみて高い
のだろうかと考えてしまいます。

その他としては、街中で障害者をあまり
見かけないし、点字ブロックもありません。
広い土地柄、車を利用するのが当然の事
と考えられますが、たまに一人歩きをして
いるとすぐ周りの人が連れ立ってくれるの
で点字ブロックが無くても不自由はしない
のです。点字ブロックは、特定の建物内以
外は敷いていません。

ホテル内では日本人が多く、ロビーに居
ると各地の方言が聞かれ、日本のホテルに
居るような気がしました。片言の英語と手
ぶり、身ぶりで最小限のことは通じます。
一つ面白いと思った事を、ホテル前に二
つの喫茶店がありました。同じコーヒーが
一方は三〇〇円、片一方は五〇〇円です。

前者はセルフサービスの店でした。ホテル
でも、ボーイさんに荷物を持ってもらい室
まで案内してもらおうと五十セント以上のチ
ップがいります。部屋番号を聞いて自分で
荷物を持って行くと、チップがいらず安上
がりになります。

ナンペイの

ひとこと&ふたこと。

街の風景の中で

さむい冬の朝、いつもと同じように近くの病院へと出掛けて行く。まるで仕事のようになりハビリに通う生活がもう二年近くになろうとしている。

だいたい同じ時刻に家を出て、同じ道を通る。だから街の風景もほとんど変りのない表情を見せてくれる。

ある家の前では、しらが頭のお爺さんが盆栽に水をやっている。電機屋の店先ではモップで丁寧な掃除をしているおっちゃんがいる。そして、スーパーマーケットの前には一日の仕入品を運んできた大型トラックが何台か止まり、せっせと品物を運び込む人達が、忙しく立ち働いている。

まあ大抵、毎日がこんな感じの街の風景の繰り返しなのだが、こんな風景のなかに

ひとり登場人物が増えていることに、最近気が付いた。

どこにでもいる「普通のおばさん」である。いつも黒いコートを着ていて、そしていつも決って小走りに走っている。多分この近くに勤め先があつて、そこに遅れないようにいつも急いでいるのだろう、と勝手に想像している。

ところで、この「普通のおばさん」といつの間にか、軽い会釈を交わすようになってきていることに最近気が付いた。



この「おばさん」が、いつから朝の街の風景のなかに登場するようになったのかも全く覚えていないのだから、どういうきっかけで会釈をすることになったかなんて思い出せるはずもないが、とにかくいつの間にかお互いに頭をビョコンと下げて挨拶している。そして、相手は相変わらず小走りで行ってしまふし、私もそのまま病院へ。

ただそれだけのことなのだから、こんな風に書けばかなり大袈裟で単純だと思われるかも知れないが、このことに気が付いてからは、友達が一人増えたような、ほんの少しだけトクをしたような、そんな気持ちを感じている。

ひよっとしたら、この街の朝の風景に私自身がうまく溶け込めていることが自分自身で感じられて、それがほんのチョッピリ心を軽くしてくれるのかも知れない。それは確かに単純すぎることも解らないけれど、ちょっとした出合いでも大切にしたいと思う者にはハッピーな出来事である。

明日の朝、思いきって「おはようございます」と声を出して挨拶してみよう。そう思いながらこれを書いている次第である。

南光龍平

美智子のこんな話



岸田 美智子

海遊館へ行ってきました

東洋一大きいといわれる水族館である海遊館へ、「施設の障害者外出サービスネットワーク」の仲間と行ってきました。

本当は今年の十月にみんなで行こうと計画を立てていたのですが、大変な人気で、画に入れても（車椅子の人はエレベーターで別の入り口から入れます）人込みで何も見れないだろうと、この二月に延期しました。それでも昨年の開館時の混雑が続いていました。館内は周りが全面水槽でその中を螺旋状に見学者が下りていくようになっていたのです。

魚のエイなどは壁のガラスに、きゅうば

んのようにへばり付いて、泳いで行ったりするので、度々ハッとさせられました。

人込みの中、皆さんはゆっくり見る事ができたのか？と心配でした。

人込みの中を車椅子で、割り込むのは、ちよっとしたワザが必要ですね。殆どの人が車椅子に気が付かずに、ぶつかってきたり、つまづいたりして来るし、車椅子の私が「すみません！見せてください〜い。」といくら叫んでも、前を空けて見せてくれませんでした。

改めて目線の高さの違いを実感させられました。それでも、私はめげずに割り込んで行き、じんべえザメの迫力やペンギンのかわいさに、思わず見とれてしまいました。当日、一番ゆっくり見すぎてなかなか出て来ずに、みなさんにご迷惑をかけたのは、事務局の私だったのです。

やはり、春ですネ…エへへ。みんなからは、いつまでも非難されている私ですが…来月も施設からの楽しい外出を、応援していきたいものです。

***** 阿倍野区ボランティア交流会 *****

平成三年二月三日（土）午後一時〜三時三〇分、阿倍野区ボランティア交流会実行委員会の主催で「第五回阿倍野区ボランティア交流会」が阿倍野区民ホールで開催された。本年度のテーマは「地域福祉の主体は、あなた！」、お二人のパネラーに地域でのボランティア活動の話聞いた。

東住吉区今川社会福祉協議会の沢田博子ボランティア部長には、配食サービス、活動基金作り等の話と、ボランティア活動を通じて生まれる出会いの楽しさの話。

地元阿倍野区からは、丸山社会福祉協議会猿田博会長より、丸山地区のボランティア活動の歴史（昭和五一年に設立）と、現在の活動（花いっぱい運動、配食サービス、おもちゃ図書館等）、「松虫塚まつり」の話等。この後、グループ討議に移り、地域でのボランティア活動について話し合い、市社会福祉協議会の竹村安子福祉部主査がまとめて交流会を終った。



あっちゃんのシングルライフ

2

山本 篤江

今日は、あっちゃんです。

今回はずくと昔にさかのぼっての話を聞いてください。

それは、十五〜六年前、まだ若くってワイカッタころの話です。親から離れての施設暮らしなんて、親はおろか私自身も夢にも思っていなかったことでした。

それが、先輩の一言で私の人生（おおげさ？）を変えてしまったのです。

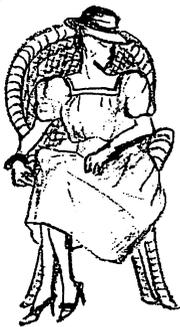
その先輩は、私よりずくと障害が重くって見の回りのことも出来ない人でしたが、なんと身体障害者センターへ行きたいと言っているのです。それを耳にしたとき、私もとえ一年でもいいから一人でやってみたい；と想ったのです。今から思えばそれが自立への芽生えだったのかも・・・？

サー それからが大変。本人すら夢にも思っていなかったことです。両親の驚きと言うかナント言うか、今回と同じように初めは耳を貸してはくれないどころか、頭から問題にしてくれませんでした。

それを二年かけて説得というより、時間

切れ（高校卒業の）で、念願かなって界にある身体障害者センターへ。でも、その時は、自分で決めたものの、若かったためか不安でいっぱいでした。今だったら考えられないことです。長かったような短かったような七年が経ってしまい、手編みのお免状もいいただき、次にセンターを出てどうしたらいいのか、又迷いました。お決まりの如く家では、それだけガンバッタのだから家に帰ってこい、帰って来て家で編み物をしたらいいと言ってくれました。

それが一番安心だったのです。でも、私にとつて、親から離れての七年は想像もつかないほど大きいものになっていました。その時から私の一人暮らしの夢は消えることなく続き、苦節十年の長い歳月の果てに実現したものです。



<サロン・あべの>第57号 編集：サロン・あべの 運営委員会 定価 100円

(〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028. 富田慶子)

印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101 TEL.06-691-2365.